

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 12 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100116		
法人名	社会福祉法人 広島光明学園		
事業所名	グループホーム光明牛田新町		
所在地	広島市東区牛田新町3丁目20-15 (電話) 082-222-3223		
自己評価作成日	平成27年11月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100116-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年12月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

事業所と同じ敷地内に保育園が立地しており、入居者の方と園児とのふれあいの機会を設けている。また、隣接するグループホーム・保育園と共に交流行事（誕生日会・仏参）を毎月実施し、入居者の方楽しんで過ごして頂けるよう努めております。敷地内だけではなく、近所の公園などへ園児さん達と散歩に行くなど、外出も定期的に行っております。さらには地域行事への積極的な参加により、地域の一員としての存在・役割を果たすよう努めております。共用型のデイサービスを開設しており、入居者の方々とデイサービスの方々との交流により、お互いが刺激になるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

同一建物内に保育園があり、日々子供の声が聞こえたり、遊ぶ様子を見ることが出来る。また、系列のグループホームが隣接していることで、行事や催し物を通して交流の機会を地域も含めて一緒に実施している。公園、スーパーも徒歩で行くことが出来る環境にあり、このような強みを活かし、日常的に散歩や買い物、外出の機会を取り、世代間交流が出来るように取り組むことで利用者の「笑顔を引き出し、人との繋がりを大切にする」ことに努めている。職員の資質向上のための取り組みとして、同一法人の事業所とは、合同研修会の開催や直ぐに助け合える関係を築いており、職員の安心感にも繋がっている。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人全体の理念である三宝一如と、グループホームの理念を共有し、地域密着を目指し、行事等を通じて実践に繋げている。	「園児・地域・高齢者」が一つになって、みんな良くなっていくことを法人の理念としている。理念を具現化するために、その他として日々のケアに於いて「笑顔」の大切さを確認し、実行できるようにしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の季節行事（秋祭り・盆踊り等）に参加させて頂いたり、回覧板等で地域のことを知らせて下さったり、何かあった時は声をかけて頂いている。また「ふれあいの集い」には地域の方々に来所してもらい、交流を深めている。	年に1回、法人をあげて同一建物の保育園と、隣接の事業所で「ふれあいの集い」を催し、地域との交流の場としている。27年度は外部より100名程度の参加者があり、盛り上がった。町内会の秋祭り、盆踊り等には参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事・法人事務へ参加することで地域の方々との交流を通じて、地域との繋がりを実感して頂けるようにしている。事業所内に認知症アドバイザー有資格者が在籍しており、地域包括支援センターと協力して、地域を対象にサポーター養成講座を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議の開催により、ご家族様・民生委員・地域包括支援センター・消防署の方々のご意見と助言を取り入れてサービス向上に努めている。ホームでの活動報告や地域情報を共有している。	消防署の職員、民生委員、地域の住民と幅広く出席を得ている。事業所の活動報告と意見交換が行なわれ、出席の主治医より、今後の看取りの考え方、事業所の役割の説明があり、取り組みを検討していく必要性を感じている。	幅広く出席を得ているが、主体者である本人と家族の出席が得られていない現状があるようです。更に効果的な会議となるためと、ご家族の理解と満足度を高める為にも、何人かご家族・ご本人に出席していただくよう努力して頂くことが望ましいと思われます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	法人全体の防災意識が高く、常日頃より避難訓練には力を入れている。その際、消防署との連携や指導を受け、利用者様の安全確保に努めている。	認知症サポーターの養成講座の開催を地域包括支援センターと一緒に実施している。市町の担当者とは、必要がある時は連絡をしている程度である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関には施錠はしていないが、自動ドアに工夫を施し、モニターによる見守り体制を整えている。各階のベランダに出る扉は施錠はあるが、状況に応じて鍵を掛けることなく、利用者様が自由に出入りできるようにしている。施設内、外研修を実施し、身体拘束の研修で得た情報を職員全体で共有している。	年間計画で1回は、この項目に関する内部研修を、原則全員出席で実施している。 外部研修で得た新しい情報については、回覧板で周知するようにしている。エレベーターの行き先ボタンを押すところに工夫があり、一人で乗ることを防ぐようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人全体の施設内研修や担当者会議、マニュアルを整備し職員が学び、利用者様の人生、人生観を尊重するように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職場の研修で学び、実際にご家族の方が成年後見制度の手続きをされた時に協力させていただいた経験があり、今後も要望により支援していくようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項の説明をさせていただき、理解と納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族が来園された際は、職員側から声かけをさせていただき、利用者様に対しての気づきや要望などをお聞きしてプラン等に反映させている。また運営推進会議や、各ユニット入口に意見箱を設置しており、年1の家族会開催により、ご家族様や外部の方の意見・要望を聞かせて頂き、運営に反映させている。	家族会を年に1回開催している。「事業所として看取りをして欲しい」との意見があった。今まで経験がないこともあり、今後の検討課題としている。意見箱の設置をし、広く意見や要望を聞き取れるようにしている。利用者とは、日々の関わりの中で要望を聞き取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	環境・行事・事故防止に関する委員会を設置し、定期的に話し合いをする機会を設けている。管理者が現場に入り、実際に職員から意見や提案を聞き、運営に反映させている。	環境・行事・事故防止に関する委員会を設置し、定期的に会議を開催して、意見や改善等の案を上申している。管理者は直接現場に於いて意見の収集に努め、改善に向けて上司へ報告と相談、および協議の機会に発言している。事務機器の入れ替えにより、事務処理時間の軽減に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	希望休暇をシフトに反映させ、業務に対してストレスを溜めないようかつ、業務に対して向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者が実際に現場に入り、職員一人ひとりの介護技術のレベルや、接遇面の関わり方などの把握に努めている。また職員とのコミュニケーションを大事に考えており、働きやすい職場作りを目指しています。必要に応じて法人内外の研修に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外研修に参加しており、他事業所の現場においての意見交換を参考にし、サービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	基本情報・アセスメントを早期に共有し、理解するよう心がけており、利用者様の悩みや願望、ニーズなどを把握し、少しずつ距離感を縮めていき、安心感のある居場所であるように、働きかけに努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	見学や契約の際に、ご家族の立場を理解し、悲しみ、苦しみ、悩みを共有するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様に、もし何かあった場合を想定して、常日頃より、医療機関や当法人の他事業所との連携を密にするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様の状態が厳しくなっている状況の中、介助に苦慮する面もあるが、介護内容チェック表を作成し、「できること」を見つけ、ご本人の喜びにつなげ、暮らしを共にする関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設を自宅としてとらえ、ご家族が出入りを遠慮されないよう努めている。来園時には、一緒にお茶を飲んでいただいたりし、ご家族の方にも一緒に楽しんでいただけるよう努め、共に支えていく関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	法人行事、施設行事を通じて、利用者様のご家族、友人、知人、地域の方々にも来園していただけるように努めている。ご家族様の協力を得て、行きつけの美容院や墓参りなどの外出を支援するよう努めています。利用者様の思い出の場所に、一緒にドライブすることもあります。	ご家族に協力をお願いしながら、行きつけの病院や墓参りなどの外出支援をしている。現役時代の職場が気になると言われていた方に、受診の後、行って頂いた。その後安心されたのか、落ち着いた生活を取り戻されたことがある。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペースで、少数で関わっていただき、隣近所のような関係を大切にしていこうと努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	行事などを通じて、常に関わりを大切にしてい、相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外出時や散歩時などに、1対1でコミュニケーションを図ることを心がけており、その際に今の生活満足度や今後の意向などを把握するよう努めています。意思表示が困難な方には、表情や様子をみて把握するように努めています。	利用前は、ご家族や関係者からお話を聞かせて頂き、ご本人のことを知る努力をしている。利用後、信頼関係が構築されたら、ご本人から本音を聞き取ることが出来るので、その内容をケアプランに反映し、希望がかなうような努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様との会話や、ご家族からの情報を職員で共有するとともに、生活環境、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月の現状報告書を作成することによって、利用者様の抱える問題などを分析し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者ごとに担当制を設けており、介護計画をベースに「介護内容チェック表」の様式を作成し、毎日、職員がモニタリングを行っております。またケアマネージャーが、そのチェック表を基に総合評価を実施している。年2回を基本に、介護計画の見直しを行っている。	利用者ごとに、担当者を決めている。毎日の関わりの中で、モニタリングを意識してチェック表に記入し、月に一回担当者が総合評価をしている。その上で、必要に応じて介護計画案を立てて、本人と家族にも極力出席して頂き、担当者会議を開催している。基本的には、年2回、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録の他、申し送りやヒヤリ・ハットでの情報を共有し、現状のサービス内容の見直しを実施している。「できること」の把握に努め、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族との連携や会話を大切にし、職員主導ではなく、一緒に支えあっているように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	隣接する保育園の園児さんとの触れ合いや、行事に参加することにより、生活のメリハリを持っていただき、楽しく生活を送っていただくように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	地域の協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の往診がある。また、週1回、歯科医往診も行っている。必要に応じて電話連絡により、相談や指示を仰ぐ対応も行っている。急な体調不良や発熱時は、随時受診を行い対応している。	かかりつけ医の月1回の往診と週一回の歯科往診があり、健康管理に努めている。本人の希望があれば、他の医療機関への受診もして頂くことが出来る。緊急時には、状況に応じて受診の同行支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	健康チェックの他、身体状況について把握し、気づきなどを伝えて、対応については看護師の指示のもと対応し、個々の利用者様に合わせるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院を目指した支援を行うためにも、入院先の主治医・看護師との連携を密にとり、入院中の経過や状況などの情報を共有するよう努めている。また、家族様と話し合いを随時行い、退院後の支援について方向性を確認するよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの経験はありませんが、入居契約時に、ホームでの対応は可能であることは説明している。重度化した場合は、その都度家族と、方向性についての話し合いの場を設け、確認をしている。可能な限りホームで支援し、医療行為を必要とする場合は、医療機関（かかりけ医）と連携しながら対応している。	終末期と判断された時の対応についての説明、状況の変化時の説明は、その都度、口頭で連絡している。今まで事業所での看取りはないが、今後の課題として要望があれば、看取りをして行きたいと考えている。	利用時と必要に応じての説明はされているようですが、スタッフ全員の認識を高めることと、ご家族の要望に応えるためにも、看取りに関する指針、同意書等の作成、研修の実施等をされることにより、更にサービスの質を向上されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	夜間帯の急変を想定し、当施設だけでなく、隣接する施設職員との連携を取れるよう訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	隣接する保育園、グループホームと共同で、月1回の避難訓練を実施し常日頃から危機管理を心かけている。火災発生場所や状況設定を随時変えることで、設定に応じた柔軟な避難訓練体制を築いている。また、夜間想定避難訓練も随時実施している。	併設事業所、保育園とは、月1回の避難訓練を実施している。年2回は、地域住民と消防署と連携して消防・避難訓練を実施し、地域の避難場所としても登録している。災害時の食糧備蓄は地域分も考慮している。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人研修を行い、言葉使いや声かけの仕方など、職員全体で意識し合っております。入浴の際は、必要に応じて同性介助で対応し、羞恥心への配慮も行っている。利用者様がこれまで生きてこられた人生を尊重し、支援するよう努めている。	人権擁護に関する研修は、事業所の年間計画に位置づけており、全員が受講するようにしている。日常の介護の中では、特に言葉遣いや声かけについて、職員が意識するように指導している。入浴介護についても、本人の意向を尊重し、同性を意識して介護している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人からの訴えがあれば、否定せずできるように対応し、またはご家族からの間接的要望を聞き、自己決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のペースより、行事等で時間的な問題により、事業所側のペースになりがちであるが、参加、不参加は利用者様の希望に沿って、個々に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	普段は利用者様の好み等もあり、任せている。行事で外出する場合は、その行事に合わせた身だしなみ、整容を実施している。ご家族との外出においては、ご家族様好みの対応をしている。ご家族様が外出の服等を持参されることもあり、おしゃれができるよう支援している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	朝と日曜日の食事は、職員の手作りで提供している。昼食と夕食は管理栄養士が、厨房で調理したものをホームで盛り付けを行っており、その際、利用者様にも手伝って頂く支援をしている。おやつを手作りする際には、利用者様と一緒に準備・片付けもしていただいている。	朝と日曜日の食事は、職員が手作りするものとしており、食べたいものを聞きながら、臨機応変に対応することが出来る。それ以外は、管理栄養士による管理の下、状態に合わせた食事の提供をしている。片付けやおやつ作りは出来る人と一緒に行なっている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	給食室から提供されることにより、カロリー、バランスについては管理されている。水分量については、ひとりひとり、職員が把握し、少ない方には、摂取して頂くように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	週1回の訪問歯科、看護師と連携し、口腔ケアを実施している。また口腔ケアが難しい方については、方法の指導を受けることもある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	基本として、トイレでの排泄を行っているため、全員がパッドとリハビリパンツを使用している。排泄チェック表を活用し、間隔を確認し、状態に合わせたトイレ誘導に努めている。夜間のみ、パッド交換やポータブルトイレを使用する方もおられる。	排泄はトイレであることを基本としており、動きを妨げない尿パット、リハビリパンツを使用している。排泄チェック表により、一人ひとりの間隔を知り、夜間の使い分けや、日中活動性を高めることで、失敗を防ぎ、自尊心を保てる介護を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然なお通じができるよう、毎日の乳製品の摂取や、運動をして頂くよう取り組んでいる。テレビ体操の実施や個別対応による運動を行い、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	事業所側のペースになりがちではあるが、時間的な希望等を考慮し、極力、利用者様のペースに合わせている。看護師の助言が必要な方は、看護師の指示などで入浴を行い、個々に応じた入浴支援をしている。	週2回以上は入浴が可能となるようにしている。健康状態に応じて、回数や時間などの調整をしているが、基本的には利用者の希望とペースに合わせて実施するようにしている。利用者の体力や状態に応じて、二人で介助する場合もある。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	利用者様のペースで就寝して いただいている。昼夜逆転にな らないよう、日中は無理の無い よう、運動やレクリエーション を実施し、夜間に安眠できる ように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。	服薬マニュアルに従い、確認を 徹底し、看護師と連携をとりつ つ、服薬事故の無いよう努め、 利用者様の变化にも注意する よう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	レクリエーションを実施するこ とで、集団での楽しみが個人の 楽しみにつながっている。利用 者様個人の楽しみも取り入れ ていく支援も必要性があり、 個別の対応などの支援も行っ ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	施設でイベント企画を立て、外 出できるように努めている。ま た、隣接する保育園の園児さん との交流も増し、外出する機 会が増えている。外出の際には 、ご家族様の協力も得て支援 している。	近くにスーパー、公園があり、 天気の良い日などには買い物 や散歩に出かけている。保育 園の園児との交流も日常的に あり、一緒に出かけ楽しむ時 間を設けている。少し遠出にな ったりすると、ご家族への協 力も得るようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	原則、金銭に関してはご家族 が管理されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様ご自身の要望があった際は、事業所の電話を利用していただいたりして、支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者様と職員とで、季節を感じていただける物を作成し、共用空間である廊下、入口等に展示を実施している。所々に花を飾ったり、工夫している。廊下に設置したソファで寛いだり、ベランダには、洗濯物を干してあり、家庭的な生活感があります。また園庭では、遊ぶ園児さんの元気な姿や声が聞こえる環境です。	共用ルームは、透明のガラスで開放感があり、園庭で遊ぶ子供の声が聞こえ、窓越しに裏山の季節の移ろいを感じることが出来る。ソファと椅子も何種類か用意されており、個人にあった物を使っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファ、テーブルの配置を考慮しながら、くつろげる空間作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご家族様の協力を得て、使い慣れたものや、プレゼント、花などを置き、安全に考慮しながら、居心地の良い居室作りをしている。	布団やタンスは、個人の使い慣れたものを持ち込むことが出来る。好きな花を置いたり、自分の作品や写真が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	安全確保に努め、行動を制限をしないよう工夫に努めている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明牛田新町

作成日 平成28年 1月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	民生委員・消防署関係・地域住民の参加は幅広く得ているが、毎回固定化している現状がある。	今まで参加して頂いている事業所以外また本人・家族の参加機会を増加させる。	年6回開催のうち、最低2回は本人・家族の出席を得られるよう配慮する。	6か月
2	33	看取りの重要性・必要性は感じているが、看取りに関しての方針・同意書の作成が出来ていない。	看取り対応するためにも、方針・同意書等の作成や職員の意識向上を含めた研修を実施し体制を構築させる。	外部研修を通じて他事業所の看取り実践を学ぶ機会を設ける。管理者だけでなく現場職員の参加を勧める。	6か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。